

# 大会運用細則

## 1. 総則

公益財団法人日本少年野球連盟（以下、連盟という）は、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の錬磨とスポーツマンシップを理解させることに努め、挨拶、規律を重んじる明朗な社会人としての基礎を養成し、次代を担う少年の健全育成を図ることを目的としている為、役員、指導者は連盟の規則、規約に従い、常に良識ある言動に努め、ボーイズリーグの精神、趣旨並びに方針に従い、選手に対して暴力的な言動をとってはならない。

## 2. 目的

連盟主催大会の規則、規約、大会規定、特別規定を遵守して大会をスムーズに運営することを目的とする。

## 3. 大会役員・審判員の役割分担と確認事項

- (1) 大会役員、球場運営委員、責任審判員は試合開始予定時刻1時間30分前までに担当する球場に集合し、球場責任者のもとミーティングに参加し、その日の進行及び役割を確認すること。
- (2) 大会役員、球場運営委員、チーム代表の服装は連盟指定に従うこと。  
大会役員、球場運営委員、チーム代表の服装は原則として下記の通りとする。  
夏季（6月1日から9月30日）連盟指定の服装（帽子、ポロシャツ、ズボン）、指定の靴か白系統の運動靴。  
冬季（10月1日から5月31日）連盟指定の服装（帽子、ネクタイ、ジャケット、ズボン）、指定の靴か白系統の運動靴。白色のワイシャツ。
- (3) 球場責任者は、当該試合のチーム代表・責任者に対し、資格審査開始予定時間を伝える。
- (4) 大会役員はそれぞれ試合前の役割に分かれて準備を進める。
  - ① 大会当日の試合数と試合開始時間と球場の終了時間の確認。
  - ② 登録役員選手名簿とオーダー表の確認。
  - ③ 試合用のボールの確認。（1試合7個）
  - ④ 記録員、アナウンス、試合記録用紙、計測用タイマー（カウントダウンタイマー）の確認。
  - ⑤ 試合担当審判員の人数、名簿の確認。
  - ⑥ 試合会場の準備。
  - ⑦ 開会式が行われる会場では、掲揚台に掲げる旗、人数の確認。
- (5) 記録員
  - ① 試合時間等は連盟の大会規定、特別規則を遵守すること。
  - ② 試合時間を計る時計は本部席の記録員が管理する計測用タイマーを唯一のものとする。
  - ③ 記録員は試合状況を記録用紙に記載し試合進行を管理する。
  - ④ 球審のプレイボールのコールと同時にタイマーのスイッチを入れ、試合開始時間を場内放送するよう伝えて放送をお願いする。
  - ⑤ 試合経過と試合時間を見守り制限時間が過ぎた場合は直ちに控え審判に知らせる。

- ⑥ タイブレイクに入るような状況であれば、そのイニングの最終打者の確認を行うこと。
- ⑦ タイブレイクは連盟の特別規則に従う。
- ⑧ タイブレイクに入った場合は、打者、走者が所定の塁についたか、背番号を塁審に明示させ確認し間違いがなければ球審に伝える。
- ⑨ タイブレイクの記録は連盟規定に従い記録する。
- ⑩ 投手の投球回数を管理し、ダブルヘッダーで投手を務める選手の投球回数を把握し、回数が来た場合は控え審判に報告する。(別紙1参照)

#### (6) 審判員

- ① 球場責任審判員は球場、グラウンドを視察し大会本部又は球場責任者と協議し、その球場のグラウンドルールを決め、当日の試合内容等を確認し審判員に周知徹底を図ること。
- ② 球場責任審判員は各試合の担当審判を決めて、球場責任者に報告する。
- ③ 審判員は担当する試合球場に開始予定時刻1時間前までに到着し、球場責任審判員に届け出て、当日のルール等について確認を行うこと。
- ④ 球場責任審判員より指名された控え審判員は、正規な服装で指定された席で公認野球規則、連盟の特別規則、大会規定を置き試合経過と試合時間を注意深く見守る。
- ⑤ 審判員のサングラスの着用を禁止する。但し、目に支障のある場合は、自分の目が相手側に判る範囲のものに限り、サングラスの着用を認める。(最初に球場責任審判員に届出ること)
- ⑥ 控え審判員は記録員から試合終了時間の報告を受け、球審に伝達する。ただし、試合制限時間に達していても、正式試合の4イニングスが終了していなければ続行させる。
- ⑦ 延長戦については大会規定、特別規定に従い、球審は控え審判の補佐のもとに迅速に対処する。
- ⑧ タイブレイクに入れば、球審もしくは球場責任審判員が打者、走者に所定の塁に立つよう指示し、背番号を本部席に明示して記録員に確認させる。
- ⑨ 控え審判員は担当審判員が規則適用に誤りを犯している場合には誤った規則を適用されたチームの抗議に関係なく、その誤りを訂正させることができる。
- ⑩ 審判員の役割として、試合がスピーディに進行するように積極的に、監督、選手に働きかける。
- ⑪ 審判員はルールに基づいたストライクゾーンの徹底を図る。

#### 4. チームの球場到着後の届け

- ① チームは試合開始予定時刻1時間前までに試合球場に到着し、代表(チーム責任者)は到着後直ちに大会本部に到着の報告をし、オーダー表5部を提出して所定の審査を受けられるよう、準備し待機すること。
- ② 登録名簿と指導者登録の変更と選手の欠席が生じた場合は欠席、変更届書を添付して提出する。(選手1名の欠席でも欠席届を提出、別紙2参照)

#### 5. オーダー表の確認と取扱い

- ① ベンチ入りする全ての選手を記載した、連盟指定の20名記入出来るオーダー表を球場責任者に5部提出。

- ② 球場責任者は提出されたオーダー表と登録名簿と照合し、オーダー表の内容に誤記、記載漏れがないか確認し、間違いが判明した場合は、代表及びチーム責任者に修正させる。
- ③ 審査後にオーダー表の誤記等の間違いが判明した場合、直ちに訂正させて罰則は適用しない。又、選手が誤った背番号を付けていた場合は判明した時点で正しいものに直ちに置き換えさせて罰則は適用しない。
- ④ ダブルヘッダーで次の試合に臨むチームは試合開始予定時刻15分前位までにオーダー表5部を球場責任者に提出すること。
- ⑤ 担当する試合の責任審判員は、オーダー表3部を持ち、両チームの主将、監督を集合させ先攻、後攻をジャンケンで決めて、オーダー表を両チームに配布する。
- ⑥ オーダー表の配布先は以下の通りとする。  
配布先 相手チーム×1 審判部×2 放送係×1 記録係×1 計5部

## 6. 登録外選手が試合に出場した場合の処置

- ① 試合開始前に判明した場合は、その選手の出場を禁止する。
- ② 試合中もしくは試合終了後に判明した場合は没収試合とし、相手チームに勝利を与える。

## 7. 試合開始前の選手負傷による変更の取扱い

オーダー表交換後、試合開始前の間にオーダー表記載選手が負傷又は病気のため先発出場が不能となった場合、控え選手を出場させることができる。この場合出場不能になった選手は、回復すれば以後の試合に出場することができる。

## 8. 資格審査方法と手順

- ① 審査員は原則として、大会役員が2名2組で行うものとし、使用用具の審査は審判員もすることができる。審査を受けていない用具はベンチへの持ち込みを禁止する。
- ② 審査はウォーミングアップを中断させないように配慮する。
- ③ 資格審査内容は、連盟の審査要項・大会規定・特別規定に基づいて行うこと。
- ④ 指導者、選手を整列させ登録名簿原簿と指導者登録証、審査カードとの照合と有効期限の確認を行う。
- ⑤ 第2試合目のチームの審査は第1試合の4回終了を待たずに行ってもよい。又、4項①チーム到着後所定の審査を受けられるよう準備が出来れば審査してもよい。

### (1) 登録役員選手名簿との照合確認の手順

- ① 指導者（チーム責任者・監督・コーチ・マネージャー）、選手を整列させ、指導者、選手の服装と指導者登録証の携帯と登録名簿原簿との照合を行うと同時にカードの有効期限の確認を行う。
- ② チームの責任者は必ずベンチに入らなければならない、入らない場合はいかなる理由でも試合は出来ない。
- ③ チームの責任者とは、チーム代表かチーム内で責任のある者で連盟指定の服装で、チーム責任者証を携帯している者。なお、チーム代表は代表証を携帯していればよい。
- ④ 監督（60）、コーチ（50）の背番号と役員用ワッペンを付けて、選手と同じユニフォームを着用し、選手と同様の同色系統のスパイクか運動靴で指導者登録証の携帯と有効期限の確認を行う。

- ⑤ 代理監督は背番号（60）と役員用ワッペンを付けて、選手と同じユニフォームを着用し、選手と同様の同色系統のスパイクか運動靴で指導者登録証を携帯していなければ監督としての権利を認めない。
  - ⑥ マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること。
  - ⑦ コーチの年齢制限はないが、未成年者は監督の代行は出来ない。
  - ⑧ 選手に右向きにさせてユニフォームの左袖に選手用ワッペンの有無を確認し、無い場合はベンチ入りを停止する。但し、試合終了までにつけて再審査を受ければベンチに入ることができる。
  - ⑨ 選手を後ろ向きにさせて背番号の確認を行う。
  - ⑩ 登録名簿の記載順に背番号を呼び選手を振り向かせ、審査カード（写真確認）を提示させ、氏名・生年月日を言わせ、登録名簿と照合確認する。内容が一致しない場合はチーム責任者に確認し、誤った記載があれば修正させる。
- (2) 使用用具について
- ① 試合で使用する用具は全て連盟指定業者（以下指定業者という）の物であること。
  - ② 選手の整列を待たずに、選手が当日使用する全ての用具を整列させて連盟基準に沿って審査を行う。
  - ③ 使用予定用具が指定業者の物であるか安全性に問題がないか確認し、又、指定業者の物であるか確認出来ない場合は、審査員は球場責任者に報告し球場責任者は球場責任審判員と協議し、結果をチームに伝えた後に内容を報告書に記載する。
- (3) 使用用具の審査事項
- ① ヘルメットは両耳付きで、SGマークが付いていて、同色で安全な物（破損、ヒビ、クッションが動いている物は禁止する）を7個以上用意する。
  - ② 捕手用具は必ず2セットの確認（急所カップ2個の確認）、クッションが外れている物は使用禁止とする。
  - ③ グローブ、ミット類は綴じ紐が切損、切損状態になっている物は使用を中止させる。補修後は再審査のうえで使用を認める。
  - ④ 綴じ紐が長い物は親指位の長さに短くするよう指導する。
  - ⑤ 中学生の部のバットは金属製（SGマークが付いているもの）及び木製（一本の木材で作られているもの）のみ使用が許される。
  - ⑥ バットグリップのゴムや皮に緩み、ほぐれ、ほぐれそうになっている物は補修を指導し、補修が出来ない状態であれば使用禁止とする。但し、補修が完了し再審査を受ければ使用を認める。
  - ⑦ バットの握り部分(端から18インチ、45.7cm)には、何らかの物資を付着したり、ザラザラにして握りやすくすることは許されるが、18インチの制限を超えてまで細工したバットを試合で使用することは禁止する。
  - ⑧ 金属バット表面に変形や凹み、ヒビ割れが無いかチェックする。発見した場合は使用禁止とする。
  - ⑨ 小学生の部のバットは82cm以下で連盟のマーク（刻印）及びSGマークが付いている

こと。連盟のマークシールは不可。

- ⑩ スパイクの色は同系統色で、ライン色はスパイク色と異なっても良いが同系統色であること。ラインの形状は問わない。
- ⑪ 中学生の部のスパイクは金具か一体成型のポイント式であること。
- ⑫ 小学生の部は一体成型のポイント式であること。
- ⑬ 小学生の部において、スパイクを履いている状態で右側、左側の踵を上げさせ一体成型であるか確認し、又、損傷の有無を確認する。
- ⑭ 打撃用グローブは指定業者のもので、手首より先の物であること。色は規制しない。
- ⑮ リストバンドの使用を認める。色は規制しない。
- ⑯ エルボーガード、レッグガードは指定業者のものであるか確認を行う。
- ⑰ 審判員は各項に対して規則違反と判断した場合は、是正するよう命じる。適当な時間を経て是正されていない場合は、その用品の使用を固執する選手は試合から除くことが出来る。
- ⑱ 使用に適さない用具は球場大会本部に於いて一時的に預かり試合終了後に返還する。

## 9. 禁止事項

- ① 指導者、選手のロングパンツ、腰パンツは禁止とし、パンツの裾は膝下まで上げること。
- ② リストバンドと手袋の一体物は禁止し、手首から先の物であること。
- ③ 中学生は小学生用のバットの使用を禁止する。又、ベンチ内にマスコットバット、鉄棒、バットリングの持ち込みを禁止する。
- ④ ペットボトルに砂利、プラスチック玉等を入れて球場内での使用を禁止する。
- ⑤ 隠し球を禁止する。
- ⑥ ベンチ入りする指導者のサングラス着用及び帽子上も禁止する。但し、医療的に必要な場合は事前に球場責任者に届け出ること。
- ⑦ 選手は剃り込み、眉毛の剃り落とし、茶髪は禁止とし、行っている場合はベンチに入れない。但し、特別な理由がある場合は事前に球場責任者に届け出て、許可を得ること。
- ⑧ 選手、指導者を問わずネックレス、ブレスレット、ピアス等の着用を禁止する。但し、外見に露出させなければこの限りではない。
- ⑨ ベンチに入る指導者の髪形は連盟の趣旨を理解し、少年野球の指導者としてふさわしい清楚な髪形とする。
- ⑩ 指導者は選手に対し試合、練習を問わずいかなる場合でも暴力、暴言、体罰を禁止する。
- ⑪ グラウンド、ベンチ内で指導者としてふさわしくない行為で（暴力・暴言）注意され、繰り返した場合は球場責任者及び審判員が退場処分を命じることが出来る。
- ⑫ 走者、ベースコーチが捕手のサインを盗んで打者に伝える行為を禁止する。
- ⑬ 故意の空タッチ、意図的な強いタッチはしないこと。
- ⑭ 審査を受けていない用具はベンチ内への持ち込みを禁止する。
- ⑮ ベンチ内では携帯電話のスイッチをきり使用を禁止する。
- ⑯ マネージャーのノック、シートノックは禁止する。
- ⑰ 登録選手以外のグラウンド、ベンチ入りを禁止する。

- ⑱ 試合開始後は特別な理由がない限り、監督、コーチ以外の指導者のグラウンド入りを禁止する。
- ⑲ マネージャーのユニフォーム、ハーフパンツ、ジーパン着用は禁止する。

## 10. 安全対策事項

- ① トスバッティングを行う時はヘルメットを着用すること。
- ② 球場の防球用ネット及びスタンドに向かってのバッティング練習（トスバッティングを含む）は禁止する。
- ③ ネクストサークル内では投手が投球動作に入った時、片膝をついて待機する。
- ④ グラウンド内でのノック、シートノック時の補助要員（ボールキーパー）は必ずヘルメットを着用すること。
- ⑤ 捕手が座って投球を受ける時は必ず規定の捕手用具を着用すること。
- ⑥ 試合中、ベンチ横で1名の素振は認める。なお、素振りをする選手及びボールボーイは必ず両耳付きヘルメットを着用すること。
- ⑦ 試合中の投球練習は2組までとする。
- ⑧ 試合中、グラウンド内のブルペンでの投球練習を行うときは、試合投手の投球動作を注視しながら、又、打者の打球等に十分注意すること。
- ⑨ 小学生の部の選手は安全対策のため、胸パッドを着用するよう心がけること。
- ⑩ 試合、練習を問わず雷雲を感じた場合は（音、稲光）直ちに中断し様子を見る。なお遠くに発生した場合でも状況を判断して中断の処置をとる。
- ⑪ チームは安全対策として、救急箱は必ずベンチ内に持ち込み、AEDは設置出来るよう努める。
- ⑫ 大会本部は安全対策として、AED、救急箱の設置に努めること。尚、公営球場のAEDの設置場所の確認を行っておくこと。
- ⑬ 指導者は練習、試合を問わず選手の体調を管理し、熱中症、光化学スモッグにたいし十分注意を払うこと。

## 11. 試合についての注意事項

- ① 試合が時間内に終了するように球場責任者、球場責任審判員がミーティングして相互に確認を行う。
- ② ベンチに持ち込むメガホンは2本とする。監督、コーチの使用に限る。
- ③ 監督、コーチは試合、練習を問わず、試合を時間内に終了させるため四球、死球、攻守交代時は全力疾走し、サイン交換もスピーディにできるように指導を行うこと。
- ④ 監督のサインは複雑なものを避けてスピーディに出せるように努める。
- ⑤ 投手は審判からボールを受け取るとき、打者が打席に入るときは脱帽しなくてよい。
- ⑥ ボール回しは、ひとまわりとする。最終野手は投手に近寄らず自分の守備位置より返球すること。但し、試合の進行上禁止することがある。
- ⑦ 捕手が2アウト後の次打者の場合でもプロテクターを取り外して待つこと。
- ⑧ 打者がサインを見る場合等、むやみにバッターボックスを出ないこと。手を上げて見ないこと。

- ⑨ 次打者席へは必ず次打者が入り、低い姿勢で（片膝を付けて）待機する。又、ボックス内には自身が使用するバット以外持ち込んではいない。
- ⑩ イニング間のミーティングは試合進行を妨げないようにスピーディに行うこと。
- ⑪ ベースコーチ、先頭打者はミーティングに入らず所定の位置に付くこと。
- ⑫ 試合中、フィールド内（室内練習場を含む）で次試合投手のブルペン使用は出来ない。
- ⑬ 次試合の開始予定時刻は、球場責任者が決定する。概ね、グラウンド整備、シートノックの時間30分以内とし、ダブルヘッダーの場合は前試合終了後30～40分以内で協議する。
- ⑭ 試合終了後、両チームの選手は直ちにベンチを開けてグラウンド整備を手伝う事。
- ⑮ 監督のアピール、選手の交代等は、ロスタイムに計上しない。ケガの治療で時間がかかる場合は責任審判員の指示で計測用タイマーを停止する。
- ⑯ 試合の残り時間をみだらに明示しない。
- ⑰ スピーディな試合を行うために、ケガの処置等でロスタイムが生じる可能性のある場合は、臨時代走を起用する。
- ⑱ 審判員の判定に対する抗議は認めない。但し、ルール適用についての確認は認める。
- ⑲ 試合の延滞行為が明らかな時は、責任審判員が該当チームのチーム責任者に注意を促す。
- ⑳ 試合前のシートノックの時間は後攻側より5分以内とする。但し、試合進行の都合で省略することもある。開始や終了は放送で案内するので時間は遵守すること。
- ㉑ 監督、コーチが指導、指示を与える時間は、審判員がタイムと宣告してから30秒以内とする。守備側がマウンドへ行く場合は駆け足で行くこと。
- ㉒ 試合を早く進める為に投手に不必要なけん制を自粛させる。
- ㉓ 内野手が必要以上にマウンド付近に行き過ぎないように注意する。
- ㉔ 選手のサングラス使用については責任審判員がプレーに支障があると判断した場合は使用を認める。又、選手の中で医療的なサングラスが必要な選手は、資格審査時に、審査員に申し出て許可を得て使用すること。
- ㉕ 小学生の部では投手の変化球は禁止する。
- ㉖ 小学生の部では、走者1・3塁のとき3塁に偽投して振り向いて1塁に送球することを禁止する。

## 1 2. 選手のマナーについて

- ① きちんとした服装でプレーすること。
- ② 審判員や相手を問わず暴言や汚いヤジをとばさないこと。相手チームに対して威圧を与える行為や威嚇するような発声を禁止する。選手は常にフェアプレーの態度でプレーすること。
- ③ 捕手は投手が投球するまでキャッチャーボックス内に位置すること。
- ④ 打者は捕手の後方で投球の偵察をしないこと。
- ⑤ 野手の手袋がわりのテーピングは負傷を確認してから許可する。
- ⑥ 使用したグラウンドの整備及びベンチの清掃と後始末をきちんと行うこと。

## 1 3. 危険防止

- ① 野球規則上の守備、走塁妨害行為に対して厳しく対処する。
- ② スパイクの歯を立て、野手に向かってスライディングする行為を禁止する。ラフプレイは厳禁。この行為を行った場合は当該審判よりチーム責任者に嚴重注意をする。
- ③ ベースコーチは試合、練習を問わず必ずヘルメットを着用すること。

#### 1 4. 連盟指定業者

連盟では、選手諸君により安全で、より良質の野球用品を使ってもらうため、そうした製品を製作しているメーカーを指定している。審査対象になる野球用品の全てについて、これら業者の製品を使用することが義務付けられています。野球用品、スポーツメーカー以外の業者も日本少年野球連盟の手引きに記載されておりますので参照してください。

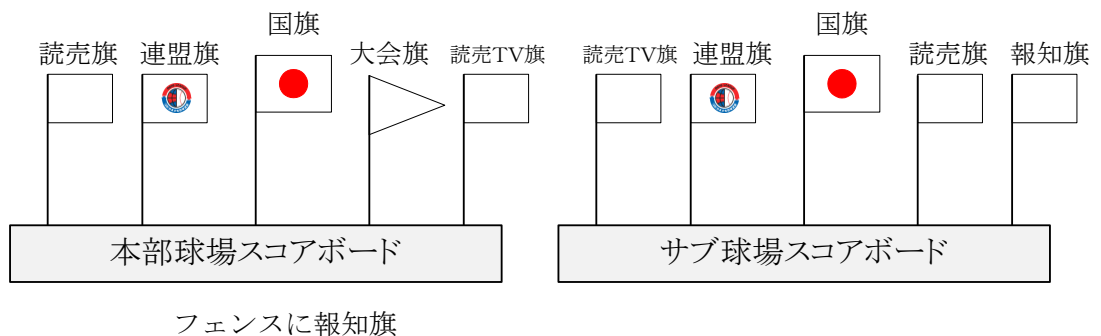
#### 1 5. その他

- ① ボールボーイを4～6名置くことにする。但し、安全に十分注意しヘルメットを着用し、ベンチ横及び1・3塁側のファールゾーンで座って待機する。自チームのバット引き及びシートノック時のボール渡しを禁止する。
- ② 試合中の場内放送はプロのアナウンスを雇い入れるか、又は、各チームの保護者2名の協力を得て実施していく。

開会式の掲揚台の旗の順番等

ホームベースより向かって

1. 中心に日章旗（日の丸）
2. 中心の左側 連盟旗
3. 中心の右側 読売新聞社旗又は報知新聞社旗 その他
4. その他掲揚台用ポールの本数などにより異なる



閉会式時の選手整列は次の通りとする。

マウンドを中心として優勝チームは3塁側、準優勝チームは1塁側に一列に整列させる。

役員整列

指導者は1塁側、審判員は3塁側、大会役員はホームベース後方に整列

以上

2013. 5. 27 校正